

# 臨床研修プログラム

(令和3年度)

医療法人社団誠馨会 新東京病院

# 医療法人社団誠馨会新東京病院臨床研修プログラム

## 1. プログラムの名称

新東京病院臨床研修プログラム

## 2. プログラムの目的と特徴

### 1) 目的

本プログラムは将来、プライマリ・ケアに対処しうる第一線の臨床医の育成、あるいは高度の専門医のいずれを目指すにも必要な診療に関する基本的な知識・技能及び態度の習得のため定められた経験目標に到達することを目的とする。

### 2) 特徴

総合診療方式（スーパー-ローテーション方式）による2年間の初期臨床研修プログラムで構成されている。基本的研修科目は内科（心臓内科・消化器・一般）・外科・救急診療としている。必修科目は救急科・麻酔科・小児科・産婦人科・精神科・地域医療があり、選択科目として内科・糖尿病内科・消化器内科・心臓内科・外科・消化器外科・整形外科・形成外科・美容外科・脳神経外科・呼吸器外科・心臓血管外科・泌尿器科・放射線科・麻酔科・救急科・リハビリテーション科・耳鼻咽喉科・頭頸部外科・小児科・産婦人科・精神科・地域医療を設定している。また医師の診療能力を高めるために、一般外来における研修を必修とする。

新東京病院は地域の救急診療の拠点であることから、救急研修は研修期間全般を通して行い、急性期医療の実践に必要な各診療科との連携、チーム医療の重要性、患者と医師との関係を同時に経験する。

## 3. プログラム指導者と参加施設の概要

### 1) 臨床研修プログラム責任者

西 将則（にし まさのり）

### 2) 研修施設

医療法人社団誠馨会 新東京病院

### 3) プログラムに参加する診療科とその概要

医療法人社団誠馨会 新東京病院の主診療科

## 4. プログラムの管理運営体制

年度末に開催される研修管理委員会において、その年度の研修および指導内容を評価し、それに基づいて次年度における研修プログラムの計画を立て、そのプログラムをプログラム責任者に提出し承認を得た後、公表し研修希望者に情報提供する。

研修管理委員会の院内組織を研修管理内部会、下部委員会として研修連絡協議会を設置する。

## 5. 募集定員

5名（総定数10名）

※定員を超える場合には、臨床研修プログラム責任者と病院長による面談にて選抜する。

## 6. 教育課程

### 1) 期間割と研修医配置予定

#### 【1年次研修】

オリエンテーション後、

- ① 内科研修 [24週] (心臓内科・消化器内科・一般内科)
- ② 麻酔科研修 [12週] (うち6週は集中治療室にて研修)
- ③ 一般外来研修 [5週] (並行研修)
- ④ 外科研修 [12週]
- ⑤ 救急診療 [4週] (麻酔科研修のうち、始めの4週を救急の代用としてブロック研修したのち、当直及び週1回の並行研修)

#### 【2年次研修】

- ⑥ 救急診療 [4週]
- ⑦ 小児科研修 [4週] (協力型臨床研修病院にて実施)
- ⑧ 産婦人科研修 [4週] (協力型臨床研修病院にて実施)
- ⑨ 精神科研修 [4週] (協力型臨床研修病院にて実施)
- ⑩ 地域医療 [4週] (協力型臨床研修病院・研修協力施設にて実施)
- ⑪ 将来専門とする診療科に関連した診療科 [28週]  
(内科・糖尿病内科・消化器内科・心臓内科・外科・消化器外科・整形外科・形成外科・美容外科・脳神経外科・呼吸器外科・心臓血管外科・泌尿器科・放射線科・麻酔科・救急科・リハビリテーション科・耳鼻咽喉科・頭頸部外科)

※1カ月を4週とするため、8週は調整週とする。

## 令和3年度 新東京病院

### 臨床研修プログラム 年間計画書

#### 1年次

4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
内科 (心臓内科)			内科 (消化器内科)			麻酔科			外科		
一般内科 (並行研修)						救急診療 (当直・並行研修)					

#### 2年次

4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
救急診療	小児科	産婦人科	地域医療	精神科	将来専門とする診療科に関連した診療科						
(当直)	各施設				救急診療 (当直・並行研修)						

※ローテーションの時期については、協力型臨床研修病院・研修協力施設の事情により変更が生じることもありうる。

## 2) 研修目標と研修内容

1 年次研修 厚生労働省の指針に基づく基本的臨床研修に重点を置く。

2 年次研修 必修科目（救急診療・小児科・産婦人科・地域医療・精神科）の研修を終えた後、将来専門とする診療科に関連した診療科を新東京病院にて実施する。

## 3) 研修医の勤務時間

午前 8 時 30 分より午後 5 時 15 分（ただし 1 週 40 時間とする）

※休憩時間は 45 分

当直は全研修医が、ローテイトする診療科において内科系または外科系の当直を上級医と一緒に行う。

## 4) 教育に関する行事

- ・オリエンテーション：研修最初に院内規定、施設設備の概要と利用法、文献と病歴の検索方法、健康保険制度、医事法規などについての説明がある。
- ・研修医が属している各科の回診、カンファレンス、抄読会に出席し、発表・報告をする。
- ・病院全体の講習会、セミナー、CPC などに出席する。
- ・各学会、研修会等に参加する事が出来る。

## 5) 指導体制

- ・研修医 1 名につき 1 名もしくは、それ以上の上級医・指導医が指導にあたる。必要に応じて専門医の指導を受ける。最終的にはローテイトする診療科の指導医が総括・指導する。

## 7. 研修評価

各科ローテイト終了時に、新東京病院研修プログラムに沿って自己評価を行う。また、各指導医は、各科ローテイト研修の全期間を通じて研修医の観察・指導を行い、目標達成状況を把握し評価する。その評価は指導医ばかりでなく、看護師、コメディカル等の医療スタッフなどによっても行われ、それらを用いて半年に 1 回は研修医に形成的評価（フィードバック）を行う。最終的に 2 年間のプログラム終了時には研修管理委員会が研修目標達成を認定する。

## 8. プログラム終了の認定

研修医は自己の研修内容を記録・評価し病歴の要約を作成し、各到達目標に対する自己評価表を研修管理委員会に提出する。一方、各指導医は研修医のローテイト期間中の目標達成状況とともに自己研修内容の記録も判断材料として、各到達目標に対する評価を行い、その評価表を研修管理委員会に提出する。研修管理委員会は、これを確認し、臨床研修プログラム責任者に報告、承認を得た後、このプログラムを終了したことを記し「修了証」を授与する。

## 9. プログラム終了後のコース

新東京病院後期臨床研修に進むことができる。但し、採用は各診療科の試験により決定される。

## 10. 研修医の待遇

身分：常勤 初期研修医

勤務時間・日数：午前8時30分から午後5時15分。4週8休を原則とする。

時間外勤務：なし

宿舎：なし（一部自己負担あり）

保険：健康保険等社会保険あり。医賠償保険は病院として加入

給与：給与は1年次:月額450,000円 2年次:月額500,000円

※当直手当1年次:10,000円、2年次:15,000円

※賞与なし

休暇：季節休暇、年末年始、その他特別休暇（結婚、忌引）

当直：月に4回まで

研修医の宿舎：有り

研修医室…なし

社会保険・労働保険：公的医療保険…千葉県医療健康保険組合

公的年金保険…厚生年金

労働者災害補償保険法の適用…有り

雇用保険…有り

健康診断…年2回

医師賠償責任保険

…病院において加入

個人においては2年次に加入（自己負担）

学会・研究会等への参加…有り

学会・研究会等への参加費用支給…有り

その他：アルバイト診療は禁止とする。

## 11. 出願手続きと資料請求先

※マッチング参加病院

出願受付：6月1日

出願締め切り：9月30日

出願書類：臨床研修申込書、履歴書（市販）、卒業証明書または卒業見込証明書、  
医師免許証（取得者のみ）、健康診断書

選抜方法：面接（口頭試問）

選考日：随時実施

研修開始日：令和3年4月1日

資料請求・出願先：医療法人社団誠馨会 新東京病院  
研修担当事務 鈴木武士、川島みどり  
〒270-2232 千葉県松戸市和名ヶ谷 1271 番  
電話番号 047-711-8726

# 医療法人社団誠馨会 新東京病院

1. 所在地 〒270-2232  
千葉県松戸市和名ヶ谷 1271 番  
電話：047-711-8726  
FAX：047-392-8700
2. 所轄保健所名 千葉県松戸健康福祉センター（松戸保健所）
3. 交通機関 JR常磐線・新京成線 松戸駅下車、松戸駅東口より新京成バス乗り場から  
新東京病院下車(15分)
4. 病床数 医療法承認病床 430床
5. 標榜診療科 内科、糖尿病内科、呼吸器内科、消化器内科、心臓内科、外科、  
消化器外科、乳腺外科、整形外科、形成外科、美容外科、脳神経外科、  
呼吸器外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、放射線科、麻酔科、  
病理診断科、救急科、リハビリテーション科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、  
眼科、脳神経内科

## 6. 当院の特色

当院は外科系診療科（外科・心臓血管外科・脳神経外科・形成外科）及び循環器科において、24時間365日、常時緊急手術が対応可能な体制をとっており、平均在院日数10日以内を保ちながら、地域における急性期中核病院としての認識を持ち、開設以来のモットーである24時間二次救急医療の患者受入れシステムを整備し、病院・診療所・療養型施設等との連携を取り、地域における当院の役割を果たすべく努めている。

対外的な広報活動についても、連携医療機関への直接訪問による情報提供と共に病院のホームページ・医療公開講座・病院年報・広報誌等の方法で地域の患者が病院選択をするための情報や医療情報の公開と提供に努めている。

患者の安全のみならず、職員の安全についても配慮し、インフルエンザワクチン等の接種費用について全額を負担し、一方感染委員会では職員へ感染に関する意識を高める努力を行っている。

## 7. 施設の概要

### ①沿革

昭和43年	4月	常磐線北松戸駅東口に東京外科内科病院開設
昭和46年	4月	健康管理部設立 成人病検診車導入
昭和47年	7月	人間ドック開始

昭和48年	4月	東京クリニック開設（現東葛クリニック）
昭和55年	1月	東京病院と改称
昭和55年	2月	東京病院松飛台開設（70床）
平成 3年	4月	松戸駅東口に新築移転（234床）
平成 3年	10月	法人化により医療法人社団三記東鳳新東京病院と改称
平成10年	2月	ハynes訪問看護ステーション開設
平成11年	11月	CR装置導入（コニカ社製）
平成12年	9月	救急外来改装
平成14年	6月	病棟改装（HCU：7床）
平成15年	4月	手術室増設（3室から4室）
平成15年	7月	新東京クリニック開設
平成15年	10月	新東京整形外科クリニック開設
平成17年	4月	日本病院機能評価機構「一般病棟種別」認定（Ver4）
平成17年	6月	血管造影室増設（2室から3室）・日帰り治療センター開設
平成17年	9月	臨床研修病院（基幹型）に指定
平成18年	4月	セコム医療システム提携病院
平成19年	6月	血管造影室増設（3室から4室）
平成20年	4月	法人合併のため、医療法人社団誠馨会と法人名を改称
平成21年	7月	一般病棟入院基本料（7:1看護職員配置）の届出
平成22年	9月	日本医療機能評価機構認定（Ver.6）
平成24年	12月	新築移転（和名ヶ谷）、326床に増床
平成25年	6月	368床に増床
平成26年	2月	373床に増床
平成27年	1月	387床に増床
平成29年	1月	396床に増床
令和 2年	4月	430床に増床

## ②環境

当院へのアクセスは、JR松戸駅前の新東京クリニックよりシャトルバスに乗り10分という立地にあり、松戸市のスポーツセンター（体育館・温水プール）の隣に位置している。同時に、院内よりタクシー会社に直接無料電話がかけられ、速やかにタクシーが来るようになっている。また近くには南部市場があり、新鮮な食材をリーズナブルな価格で購入することができ、週末や休日は買い物客で賑わっている。

## ③敷地及び建物面積

- (1) 敷地面積 24,397.43 m<sup>2</sup>
- (2) 建物面積 24,940.56 m<sup>2</sup>（鉄骨鉄筋コンクリート造 [免震構造]、地上7階）

## 8. 主要医療圏の状況

当院の診療圏は、千葉県東葛北部（松戸市・柏市・我孫子市・野田市・流山市）にあり、松戸市（人口約49万人）のほぼ全域の患者を対象とし、流山市、柏市、我孫子市さらに、野田市の約135万人を対象としております。

## 9. 研修医の出身大学

北海道大学、札幌医科大学、弘前大学、秋田大学、山形大学、群馬大学、



福島県立医科大学、東京医科大学、東京医科歯科大学、筑波大学、順天堂大学、昭和大学、日本大学、日本医科大学、帝京大学、東邦大学、獨協医科大学、神戸大学、新潟大学、福井大学、岐阜大学、大阪医科大学、関西医科大学、香川大学、島根大学、九州大学、久留米大学、産業医科大学、長崎大学、熊本大学、鹿児島大学、琉球大学

## 10. 設備

許可病床：430床（内ICU:20床、CCU:12床、SCU:8床）

手術室：9室、力テ室：6室

医療法人社団誠馨会 新東京病院

## 臨床研修プログラム

医療法人社団誠馨会 新東京病院

## (1) 目的

### 1. 基本的目標

初期診療を含む基本的診療の知識・技能を習得するとともに、各科全般を広く理解判断する能力と、医師としての正しい態度を身に付けることを目指す。

### 2. 研修方式

上記の目標を達成するため、厚生労働省の指針に基づき、1年次には内科系、外科系救急部門、一般外来をローテイトする。

2年目には必修科目の救急診療と小児科・産婦人科・精神科・地域医療を協力型臨床研修病院又は研修協力施設にて実施し、その後将来専門とする診療科に関連した研修として、内科・糖尿病内科・消化器内科・心臓内科・外科・消化器外科・整形外科・形成外科・美容外科・脳神経外科・呼吸器外科・心臓血管外科・泌尿器科・放射線科・麻酔科・救急科・リハビリテーション科・耳鼻咽喉科・頭頸部外科・小児科・産婦人科・精神科・地域医療のうちから選択し研修を行うことができる。

## (2) 年間研修計画

### 1. 1年目（当院での研修）

当院で、内科 24週（心臓内科・消化器内科・一般内科）、麻酔科 12週、外科 12週、一般外来 5週（並行研修）を行う。麻酔科 12週のうち、始めの 4週を救急の代用としてブロック研修したのち、当直及び週 1回の並行研修を行う。

### 2. 2年目（協力型臨床研修病院・研修協力施設・当院での実習）

2年目は、救急診療 4週、小児科 4週・産婦人科 4週・精神科 4週・地域医療 4週を行い、その後将来専門とする診療科に関連した診療科の研修に入る。

### 3. 3年目以降

3年目以降当院に勤務する場合、希望する診療科の診療科部長と面接を行った上で配属される。

## (3) 主な研修内容

### 1. 1年目

#### 【基本的手技習得期間】

研修医は、検査部において採血方法、臨床検査法の概要、緊急検査手技、ベッドサイド手技、レントゲン写真の撮影方法などを習得する。さらに病院の概要についてオリエンテーションも行う。

#### 【外科】12週

病棟医として数人の患者を指導医と共に受け持ち指導を受ける。臨床医として必要な外科的基本処置を習得する。受け持ち患者の手術に参加し手技を習得する。外科の主な対象疾患は、消化管、肝胆膵、乳腺、鼠径部などの一般消化器外科疾患である。一般外科は、消化器癌などの悪性疾患を取り扱うことが多く、これらの診断・治療を研修する。

また、鏡視下手術やヘルニア、痔核などの日帰り手術も積極的に行っており、指導医のもとに研鑽を積むことが出来る。

#### 【内科】24週

(心臓内科)

循環器科系の救急患者の診断・初期治療が出来るように、対外式ペースメーカーの挿入などの処置や心臓カテーテル検査を習得する。ICU・CCUの患者を受け待ち、循環器系薬剤の使用法を習得する。また、手術対象症例の場合心臓血管外科との連携も研修する。

(消化器内科・一般内科)

指導医とともに入院患者を自ら受け持ち、マンツーマンで指導を受ける。臨床医として必要な内科的基本処置を習得する。また、内科は心臓内科以外、臓器別に別れておらず、同時に多岐にわたる疾患を受け持ち、各専門医分野の担当医に適宜コンサルテーションを受けるシステムとなっている。

#### 【救急診療】4週当直及び週1回の並行研修

各種救急疾患、損傷に対する初診時の対応と、これに必要な技能知識を身につけるため救急科指導医及び各科指導医等とともに救急当番、当直を随時担当し救急医療のシステムを理解する。

#### 【一般外来】5週（並行研修）

指導医からの指示を受け研修医が診察医として適切な臨床推論プロセスを経て臨床問題を解決する。研修修了時にはコンサルテーションや医療連携が可能な状況下で単独で一般外来診療を行えることを目標とする。

## 2. 2年目

#### 【地域医療】

地域の中小病院や診療所、老人施設の医療活動及び在宅診療を通して中小病院の役割について理解し実践する。

#### 【病理】※1～2年次共通

受け持ちの患者が死亡し、剖検を実施する場合は、指導医とともに解剖に立ち会い、病理医より指導を受ける。

<協力型臨床研修病院・研修協力施設>

小児科	千葉メディカルセンター 東京女子医科大学東医療センター 医療法人社団圭春会 小張総合病院
産婦人科	千葉メディカルセンター 東京女子医科大学附属八千代医療センター 医療法人社団圭春会 小張総合病院
精神科	社会医療法人社団さつき会 袖ヶ浦さつき台病院
地域医療	医療法人社団弥生会 旭神経内科リハビリテーション病院 東通地域医療センター 東通村診療所 医療法人財団千葉健愛会 あおぞら診療所
選択科目	医療法人社団圭春会 小張総合病院 社会医療法人社団さつき会 袖ヶ浦さつき台病院 ※地域医療は上記表を参照。
一般外来	医療法人社団誠馨会 新東京クリニック

3. 救急研修

1年目に麻酔・ICUを必須とする、さらに随時「救急当番医、当直」を行なうことで救急医療を研修する。

4. 救急当番医

指導医とともに救急当番を行ない、指導医とともに診療にあたる。

5. 当直

指導医とともに当直を行ない、指導医とともに診療にあたる。研修医の一人当直は行なわない。

6. カンファレンスへの参加

講演会、勉強会、CPC、デスクカンファレンス、合同カンファレンス、各科のカンファレンスなどに出席する。

(4) 研修医の配置等

3月の研修委員会で検討して決定する。研修プログラムはあくまでも標準的なものであり、研修医の希望により専門科、選択科の研修期間を検討する。